自己評価および外部評価結果（統一版）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員参加のもと協議し作成した、スローガンを掲げている。常に意識しサービス提供に努めている。	母体の理念を基に職員全体で話し合うと共に、利用者からも日々の暮らしについての希望を聞きながら目標を作り上げ、利用者と共に書き上げたものをホールに掲示している。管理者と職員は日々の中でも振り返りながら、サービス向上に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元集落のボランティア以外にも、隣接している集落のボランティアも来てくれている。祭りも同様、地元と隣接集落の青年団が足を運んでくれ、太鼓や獅子舞を行なってくれている。	散歩や食料品の買い出しの折には地域の方々と気軽に挨拶を交わし合い、保育園や小学校の行事にも積極的に出かけている。地域の祭りへの参加やトライアスロンの応援にも出かける等、地域の方々と触れ合う機会は多い、また、郷土芸能のボランティアの訪問は利用者の大きな楽しみとなっており、ごみ収集所の清掃の役割を担う等、地域の一員としての活動も積極的である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3日に1度は、入居者と一緒に翌日の食料品を買い出しに出掛けている。運営推進会議に地元の代表の方に出席して頂き、情報交換をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催出来ていて、状況報告等を行なっている。出席者からの質問、意見が聞かれ、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は定期的に開催され、2ヶ月間の状況報告及び事業所の取り組みや利用者の活動状況について報告し、メンバーからの質問や意見を頂きサービス向上に役立てているが、利用者、家族の参加は得られていない場合もある。	会議は定期的に開催され、状況報告と共にメンバーからの質問や意見、要望を受け双方向的な会議となっている。今後は利用者、家族の参加も得て、より良い会議となることを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、市の職員の他、社会福祉協議会の職員にも出席して頂き、協力関係が築けている。高齢福祉課とも電話やメールで情報交換や、連絡・相談が行なえている。	運営推進会議に市担当者、社会福祉協議会の職員にも出席してもらい活動状況について助言をもらう等している。不明なことがあれば日頃から電話やメールでの情報交換もあり、気軽に何でも相談出来る協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月ミーティング時に、職員に交代で講師になってもらい、内部研修を行なっている（拘束の研修も行っている）玄関の施錠は、防犯上、夜間のみ行なっている。	外部研修や法人での研修で学ぶ機会の他、毎月ミーティング時に職員が交代で講師となり、内部研修を行うことで職員の共通認識を図っている。利用者一人ひとりの気分や体調をきめ細かく確認しながら安全面に配慮し、自由な暮らしを支えるようにしている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	普段の関わりの中で、少しでもおかしいと感じた時には、ヒヤリ・ハット／状態発見報告書で報告する体制を取っており、原因究明や再発防止に努めてます。管理者と職員が研修に参加している。	内部研修で「高齢者虐待法」に関する理解の浸透や法令遵守に向けた取り組みに力を入れ、日々の関りの中でも気づきがあればお互いに注意し合ったり、報告書にまとめ原因を探り再発防止に努めている。また管理者は職員の様子を観ながら声をかけるなど、気軽に話し合える関係性を心がけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修資料、報告書は常に閲覧できるようにしている。制度の理解と活用については、学びを深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	希望時、入居前見学にも応じており、不安の軽減に努めている。契約書に関しても、十分な説明を行ない、理解・納得いただけるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。 ご家族や面会者が来られた時には、職員から声を掛けるようにし、コミュニケーションを図ることによって、良い関係を築く事ができるよう努めています。	家族面会の折には職員の方から声をかけ、利用者と共に気軽に何でも話してもらえる雰囲気づくりに努めている。また、毎月の手紙や電話の中でも利用者の生活の様子を伝え、意見や要望を伺うようにし、出された意見や要望は職員間で話し合い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議に関わらず、日々、何でも相談できる環境作りに努めている。代表者、管理者との個別面談も行なっている。	毎月の職員会議では自由闊達な発言があり、日々の中でも利用者にとって何が出来るかを話し合うなど、意見を聞くようにしている。必要時は代表者、管理者との個別面談も行い、職員の意見や提案を聴く機会を設け、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得による給与アップの体制がある。 有給休暇も取るようにしてもらっている。 基本的に、1ユニット・職員3人体制をとっており、ゆとりをもって業務ができるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップ研修や資格取得などに対しては、積極的に支援をしている。 研修委員会を設置し、企画・運営、情報提供を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐渡市グループホーム協議会（3か月に1度開催）に参加し、情報交換や交流の機会を得ている。また、実習生の送り込みや受け入れを行なっており、学びの機会を得ている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護支援専門員から事前に情報を得て、一緒に過ごしていく上で、不安に思っている事等を傾聴し、また、入居後の不安を少しでも軽減できるように、施設見学にも対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申込みの段階から関係作りに努め、本人と家族とのつながりを大切にし、何でも話をして頂けるような雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を得る時には、本人や家族に対して、不快、不安な思いをさせないようにし、他のサービス事業所の情報提供を交えながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事、掃除、食事作り、畑仕事、買い物等を一緒に行なう事を基本とし、関係作りに努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、外出の際は、日常の様子を伝えるようにしている。また、「お体の状態」「日頃のご様子」を毎月手紙で知らせたり、電話での対応を行なっている。	職員は家族の思いに寄り添いながら毎月の手紙の中や面会時に日常の様子を伝えることに努めている。また、その機会に本人の健康状態や日々の暮らしの出来事など気付きの情報共有に努め、通院の付き添いや自宅外泊の協力の下、家族との絆を大切にしながら共に本人を支えていく関係継続に配慮している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚の方々の面会時にも、家族同様、居室でゆっくりと過ごせるようにしている。馴染みの場所（床屋等）への外出を取り入れている。	友人や近親の方々の面会時も居室で気兼ねなく、ゆっくりと過ごしてもらえるように配慮している。在宅時から利用していた理美容院へ行き続けている利用者や、家族と外出の折には行きつけの場所で共に外食を楽しんだりする方もおり、思い出話に耳を傾けながら一人ひとりの生活習慣を大切にし、馴染みの人や場との関係が継続できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人とのコミュニケーションを大切にし、全体の関係が円滑に図れるように、椅子の配置など、環境作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、家族や関係機関と連絡調整を行なっている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりの中で、本人がしたい事や要望等をくみ取るようにしている。また、アセスメントシートを使用し、思いや意向を把握するようにしている。定期的にカンファレンスを開催し、情報の共有に努めている。	センター方式のアセスメント表に記載された一人ひとりの情報を職員は共有し、利用者に寄り添いながら普段の会話の中からも思いや意向の把握に努めている。汲み取られた思いや意向は本人本位に検討が行われている。把握が困難な場合には表情や仕草から推し図り、ミーティング時に話し合っている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、本人、家族とお会いさせて頂き、生活歴や暮らし方等を確認している。また、担当ケアマネからも情報を収集している。愛用していた物品を持ち込めるように配慮している。	入所時に本人、家族や前事業所等から生活歴や生活の様子について情報を収集し、今までの暮らしを大事にしながら事業所での生活に馴染んでもらえるように努めている。入所後も、日頃の関わりの中で思いや希望を把握し本人本位に対応している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活スタイルや病歴を把握し、接するようにしている。アセスメント時に、運動機能評価・体力測定を行ない、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や要望、家族の意見も取り入れ、日常的に情報共有に努め、サービス計画書の作成に活かしている。利用者一人一人に担当者が決まっており、より身近な存在として、本人に支援ができるような体制となっている。	利用者に対して担当を置き、生活のニーズの掘り起こしを行っている。居室担当と計画作成者が中心となり、現状に即した介護計画を作成している。モニタリングや日々の関わり合いの中で意見やアイディアを取り入れた計画を作成している。	アセスメント、モニタリングを繰り返しながら介護計画を作成している。今後も利用者の視点に立って、本人、家族も交えて話し合い、気づき、意見、要望の反映された介護計画を作成していかれることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等を、介護記録で理解できるよう、できるだけ具体的に記録するように心掛けている。 申し送りノートを活用し、より細かな情報を共有できるようにしており、出勤時に確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて、受診に付き添ったり、買物などの外出の支援を行なっている。また、希望者には、出張マッサージや、地元の理髪店に来てもらっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の保育園へボランティアに出掛けたり、近隣の草刈りをしたり、繋がりを大切にしている。　　また、敷地内の畑作りやプランターの花の管理を職員と一緒に行なっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医で受診を継続するか、もしくは協力医療機関の往診を受けるか、入居時に本人および家族に希望を伺っている。必要時には、協力医療機関と随時連絡を取り合い、適切な医療が受けられるようにしている。	入所の際に、協力医に変更するかどうかは、本人、家族の希望を聞くようにしている。かかりつけ医は基本的に家族同行の通院となっており、受診時には家族に事業所での暮らしや心身の状況を伝え、受診結果の情報を家族から確認している。職員が付き添う場合は家族に受診結果を報告し、安心を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が週に1日来所し、報告、相談が行なえている。また、日常の健康管理や医療機関との連絡調整がスムーズに行なえている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、口頭の他、介護サマリーを提出し、情報の引き継ぎを円滑に進めるように努めている。退院時には、医療機関を訪問し、可能な限り退院前カンファレンスを開催して頂き、情報の収集に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、重度化と看取りに関する指針を提示し、確認して頂いている。利用者が重度化した時には、家族等と相談の上、医療機関や他施設への申し込みを行なっている。入院、入居が決定するまでの間、緊急やむを得ない場合を除き、入居を継続して支援しています。	契約時に重度化や終末期の事業所としての対応を家族に説明し了解を得ている。状態が変化した場合は、主治医、医療機関、家族、関係者で連携を図り、今後の方針を検討している。もし重度化した場合には関係機関への移行支援も行っている。また、看取りについても研修で学びながらチームで支援に努めている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応について、マニュアルを現場に掲示し、研修を施設内で行っている。急変時の対応も確認し合っている。AEDの操作方法を年に1回実践している。ほとんどの職員が救急救命講習を受講している。	緊急対応マニュアルの整備や緊急連絡網の徹底を図り、スムーズに対応が出来るように努めている。緊急マニュアルを見えやすい場所に提示し、職員は有事に備えられるように心がけている。消防署の指導の下、消火器の取り扱い訓練や通報訓練も実施している。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は日中や夜間の想定で、年に2回実施している。現在、地震・火災・風水害マニュアルの改訂に取り組んでおり、より実践的内容となるよう検討、修正を加えている。	事業所では緊急時の連絡網や火災、地震、水害の避難マニュアルを作成している。消防署立ち合いの下、昼夜を想定した訓練を実施し、アドバイスをもらうなど、協力体制を図っている。また、地域との災害に対する協力体制も運営推進会議で呼びかけている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護マニュアルを整備し、個別的なケアが提供できるように努めている。内部研修でも取り上げて、勉強会を行なっており、プライバシーを損ねない対応を心掛けている。	個人情報保護マニュアルを作成し、研修、勉強会を開催している。利用者一人ひとりを尊重し、無理強いをしないように声掛けの実践に努めている。また、本人のペースに合わせ慌てさせる事がなく、ゆったりと個々に合った方法でケアの実践に努めており、利用者も穏やかに過ごすことが出来ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたい食事、着たい衣類、出掛けてみたい所等、本人が自己決定できるような声掛けをし、希望を尊重した支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で過ごしたい方、他者と交わりながら過ごしたい方、外出されたい方等、個別に支援している。買い物に出掛けたい方は、同行している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の着替え、整容の際、清潔が保たれているよう支援している。定期的に地元の理容店に出掛けたり、困難な方へは来園して頂いて、整髪等の支援を行なっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を取り入れて、おいしく召し上がっていただけるよう努めている。野菜の皮むきや、料理の盛り付け、食器の後片付けを、できる範囲内で行なって頂いている。	食事への支援には、業者が作成した献立を利用者の状態に合わせる等、本人の意向を取り入れるように工夫している。利用者の能力に応じて野菜の皮むきや料理の盛り付け、後片付けや食器拭き等、出来る範囲で力を発揮できるよう支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護施設向けの冷凍食品会社へ献立を外注している。摂取が困難な方へは、栄養補助食品を摂ってもらっている。水分はしっかり摂って頂けるよう支援し、体調等によっては、清涼飲料水等を提供し、摂取量確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後実施している。夜間は義歯を外して頂き、義歯洗浄剤を使用している。　　月に1回、協力医療機関である歯科医院の往診があり、全員が定期健診を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声掛けにより誘導しており、安易にリハビリパンツや紙おむつを使用しないようにしている。歩行や立位の困難な方も、同じようにトイレでの排泄を行なっている。	オムツ使用者もできるだけトイレで排泄出来るよう職員間で連携して支援に努めている。排泄チェック表で排泄パターンを把握し、生活習慣に添って、出来るだけトイレで排泄できるように声掛けを行い、一人ひとりに合わせた誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要な食事、水分量がしっかり摂取できているか確認している。乳製品を毎日摂るようにしている。　　医療連携機関とも相談し、内服薬の調整を行なっている。軽い運動や体操を心掛けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を尊重し、行なっている。午前中から入りたい方へも、対応できている。拒む方には、職員を変えたり、タイミングを見て声掛けし、清潔が保たれるようにしている。	入浴は原則、曜日、時間などが決まっているが、利用者一人ひとりの希望に応じた入浴支援に努めている。入浴時は職員と一対一の場として会話の楽しみがある。入浴を拒む利用者には声掛けを工夫したり、タイミングを見ながら気持ちよく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や就寝時間は、本人の生活リズムを大切にして対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明書は、常に確認できる場所に保管している。誤薬がないように、内服して頂く前には、必ず2人の職員で内服薬のチェックを行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のできる事や、興味のある事を行なって頂けるような環境作りに努めている。買物、調理、手作業、畑作業等に参加して頂いている。年間の行事計画を立て、楽しんでいただけるよう取り組んでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	3日に1度は、食材の買物に出掛けており、希望者だけでなく、声を掛けて一緒に出掛けるようにしている。季節に合わせたドライブにも出掛けている。家族へも外出や外泊ができる環境作りに協力をして頂いている。	本人の希望に添って3日に1回は買物や、日頃から近隣への外出支援を行っている。地域行事や季節に応じた外出も定期的に行っている。家族の協力の下、買物や外食、外泊などの機会もあり、家族や本人に合わせた外出支援に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意思や能力に合わせ、お金を自己管理している入居者は居ます。その他の方は、事務所で管理させて頂き、買物等で必要な時に、少額のお金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の能力に応じて自由に電話を掛けて頂いている。できない方には、職員が取り次いでいる。郵便物に関しては、ハガキや切手の購入、ポストへの投函を支援しており、家族等とのやり取りができている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を置く事で季節感を取り入れたり、廊下や居間には絵や写真、目で見て楽しめる空間を作っている。　　温度、湿度を1日2回測定し、適切な環境作りに努めている。	事業所のリビング、バルコニ―からは日本海の様子が見え、広々とした自然な環境が満喫出来るものとなっている。また、やわらかな陽射しに事業所内は適度な明るさが保たれており、掃除も行き届き明るく清潔でゆったりと居心地よい空間となっている。日中はほとんどの利用者がホールで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に畳やソファーを置き、自由にくつろげるようにしている。玄関にもソファーを置いており、毎日、入居者の団らんの場になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談の上、使い慣れた家具、寝具類を持ってきて頂き、安心して過ごせるように努めている。また、家具の置き場所も、本人の希望を聞きながら配置している。	居室内は可能な限り自宅に近づけるように使い慣れた馴染みのものを持ち込んでもらうようにお願いし、思い思いの生活を送ることが出来ている。清掃が行き届き清潔感がある居室となっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、手すりなども設置されている。立ち上がりが困難な入居者の居室にも手すりを設置し、安全に行動ができるように対応している。		